

80. オスプレイ墜落

12月29日午後2時40分頃、鹿児島県屋久島沖の海上で米軍横田基地所属のCV22 オスプレイが墜落し、乗組員1人の死亡が確認された。現場付近の当時の天候は晴れだった。大破した残骸は見つかりつつあるが、今現在、可哀想に乗組員8人の内7人は見つかっていない。

ニュースは、はやくから「墜落」としていたが、緊急会見を開いた宮沢防衛副大臣は「米軍からの説明で最後の最後までパイロットが頑張ってコントロールしていたということで、不時着水としている」と述べた。そこまで米国に追従する本意は奈辺にあるのか、違和感を感じる。

横田基地の6機のオスプレイの内、2機が岩国基地経由で嘉手納基地に向かう途中に1機が墜落、もう1機は屋久島空港に着陸したという。墜落を目の当たりにした人は、「着陸するのかなと思って、ずっと眺めていた。すると急に180度ひっくり返って背面飛行になった。すぐ左側のプロペラが出火して爆発するとプロペラが200～300メートル先に吹っ飛んだ。そのまま垂直で海に落ちた」と証言する。あの大きなオスプレイが「180度ひっくり返って背面飛行」とは同じ事故でも尋常なことではない。

横田基地所属のCV22ということで、少し間違えば地元で墜落した可能性もあると思うと驚きを禁じ得ない。原因判明まで飛行停止の申し入れが相次いでいるのは至極当然だが、そのような要望は過去何回も行っている。問題は解決したとして飛行が再開されるが、大きな事故がまた起きる。その繰り返しではないか。オスプレイは構造が複雑過ぎて事故原因の解析が完全にできないのではないかと疑ってしまう。そうであれば配備自体を考え直すしかない。また担当者の解析結果が世間に発表されるまでには幾重もの階層があり、どこかで事実が隠蔽されないかの不安もよぎる。いずれにせよ今回は飛行再開が相当難しくなるのではないかと思う。

オスプレイは主翼のプロペラの角度を変えることにより、ヘリモードと飛行モードの運行ができる。ヘリに比べて高速且つ航続距離が長い。主な仕様は全長17.5m、全幅25.5m、全高6.7m、重量15トン、積載量9トン、最大速度565km/h、航続距離3,590km、機内搭載(長さ)7.3×(幅)1.8×(高さ)1.8mである。米軍オスプレイには2機種あり、MV22は海兵隊仕様の輸送機、CV22は空軍仕様特殊作戦型。両者の機体構造や基本性能(エンジン、飛行システム)は同じだ。CV22は特殊作戦用で「特殊部隊の潜入などの作戦に使うため、訓練は夜間や未明に行われる」「訓練空域では夜間に山肌をほう低空飛行訓練をする」と言われる。

在日米軍のオスプレイは、横田基地にCV22が6機、普天間飛行場にMV22が24機、自衛隊の本木津駐屯地にV22(日本仕様?)が14機暫定配備されている(20年7月に配備開始)。計44機が日本上空を飛んでいる。因みに自衛隊のオスプレイは1機当たり約100億円という。

このオスプレイ、かつて未亡人製造機と揶揄されていて、開発段階から事故が相次いだ。最近では、まず海外では昨年3月にノルウェーで、6月に米カリフォルニアで、今年8月にオーストラリア(3名死亡)でMV22が墜落、CV22は昨年8月にクラッチ不具合による事故が相次ぎ全機が一時飛行停止した。国内では上記飛行停止に合わせてV22も追加点検、今年9月には3日間で普天間所属のMV22が奄美・石垣・大分空港に5機が緊急着陸した。これは記憶に新しい。

米軍は航空機の飛行時間10万時間あたりの事故件数を「事故率」として示している。このうち乗員が死亡したり機体が大破したりした最も重大な「クラスA」の事故率は、2021年9月末でCV22が6.0だったのに対し、MV22は2.05(防衛省によるとMV22は22年9月末現在2.27)という。CV22の事故率の高さについて、防衛省防衛政策局は「特殊作戦用のため、より過酷な

環境下で用いられていることが影響しているのではないかと分析している。

本誌折々の記 No.12「横田基地とオスプレイ」(2019年7月)では事故率について、「MV22が3.24なのに対しCV22は4.05(2018年4月の記事を元)、ところが2019年の3月の記事はCV22は5.84に上がった」と述べた。凡そ3年の間に事故率は、MV22は下がりCV22は上がっていることになる。MV22の数値低減は飛行時間と関係するのだろうか、よくわからない。

我が家近辺の上空をオスプレイが飛ぶ。横田基地にオスプレイ5機が正式配備されたのは2018年10月。正式も何もなく、その前からとっくに上空を飛んでいたのを思い出す。

今年6月、日米両政府はMV22の飛行訓練で最低高度を60mまで下げることに合意した。低空飛行は当然危険を増す。自衛隊には認めていない低空飛行だ。対象は沖縄を除く山岳地帯というのだが。合同委員会で決めたと報道されたが、日本側委員にそんな決定権があるのだろうか。日本の航空法は人家のない地帯では安全高度を150m以上としている。2012年の日米合意ではオスプレイは150m以上としていたのに何故変更したのか。特殊任務を想定した訓練のためか。

散歩をしているとCV22が時には編隊を組んで以前より低空と思われる高さで飛ぶのを見ている。すでに横田基地のCV22は相当な低空飛行しているのではないかと。

オスプレイ墜落により様々な思いが駆け巡る。

(2023年12月2日)



この2枚のオスプレイの写真は、2018年9月15日の横田基地日米友好祭で撮ったものです。

